

地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



第142号

発行日 2019年6月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本部内 〒105-0014 電話03-5440-7388 fax03-5440-7389

方針討議は組織拡大に集中

田中ひさや政策実現VOL4を確認

5月24日、JAMシニアクラブは、東京駿河台にある「全電通労働会館会議室」で第2回幹事会を開催した。幹事会では「2020年活動方針素案」と田中ひさや政策実現の終盤の取り組み方針をまとめた「2019年政策実現の取り組み推進計画VOL4」について協議した。また役員選挙委員会から新年度役員選挙の中間報告を受けた。



第2回幹事会にはJAM安河内会長を来賓に迎え、木村副会長の開催挨拶後、大山会長を座長にすめられた。

大山会長は冒頭挨拶で現在取り組んでいる2019年政策実現推進活動にふれ「応援者カードの集計では3年

前を上回り、21地方で前回実績を上回っている」と報告し地方での取り組みを評価した。しかしながら依然と好

転しない取り巻く環境と、永田町界隈で吹く解散風や、安倍自民党が目論む改憲を参議院選挙の争点にする動き

に対して「安倍政権下において改憲を絶対許さない勢力を増やさなければならぬ。そのためには田中ひさやを国会に送り出すことだ」との考えを強調した。

来賓の安河内会長は春闘で中小が大健闘したこと、IGメタルに学び組織変革と50万組織をもう一度めざすこと、M&Aによって不当労働行為を仕掛けてくる経営に対して産別

基幹労連シニアクラブは 田中ひさや候補予定者を全力で応援します。 JAMシニアクラブの皆さん ご安全に！



基幹労連シニアクラブは、2013年4月に発足し、基幹労連県本部ごとに順次県本部退職者の会を設立するという過程をへて、現在37都道府県に組織を有する状況にあります。

ものづくりの現場出身のシニア層の会であり、JAMの皆さんと基盤は一緒です。山積する生活していく上での課題、そして社会を支える働く仲間の抱える課題を、しっかりと国政に伝えていくことの大切さを共有する仲間として、田中ひさやさんを国政に送り込むべく、懸命に活動を展開しています。

基幹労連は、個別組合が自らのOBに支援を要請していくことをシニア層対策の軸としていますので、シニアクラブとしては、その取り組みを側面から支援していく活動を展開しています。

具体的には、基幹シニアの運動方針で「田中氏支援」を明確にした上で、役員・会員のネットワークで支援の拡大に努めています。宮園会長と基幹労連神田委員長の連名による「支援要請書」を県本部退職者の会三役に送付し、各県ごとに支援を確たるものとするよう、個別の支援要請を積み上げていく取り組みを実施中です。合わせて全国を7ブロックに分けてブロック懇談会を開催し、その取り組みの徹底を図ると共に、シニアクラブ幹事会メンバーが各々10人以上の旧知のOB等に個別支援要請を行う取り組みも展開していきます。地道な活動の積み上げですが、現役の取り組みを支援しより確たる支援へと繋いでいくべくがんばっているところです。

JAMシニアクラブのご奮闘を祈念し、基幹シニアの活動報告とします。共にごがんばりましょう!!

JAMが前面にでて闘う姿勢や参議院選挙を巡る情勢など、現在取り組んでいる運動を紹介した。また現退対話がおろそかになっていくのではないかと指摘には「しっかりとやっていく」と語った。

方針討議では組織拡大に意見が集中した。これまでの議論で定年後も再雇用されている元組合員をシニアクラブの会員対象と位置づけ、現役員との十分な連携のもとに加入への働き掛けをするとの方針に沿って取り組んできたが現役の組合員化が停滞していること、地方JAMとの連携で齟齬が生じ、ここにきて70歳まで再雇用とする可能性がでるなど労働法制が変わるなかでどう対応するか課題が浮き彫りとなった。この課題は継続的に議論していくこととした。

また「2019年政策実現の取り組み計画VOL4」は補強意見を受け確認した。活動方針は総会に向けた議案を7月23日の第3回幹事会で確認する。

JAM政策実現総決起集会開く

田中ひさやさんを必ず国会に送る

シニアクラブ大山会長が激励

5月24日午後4時から東京駿河台のホテルで開催された「JAM政策実現田中ひさや総決起集会」に役員、単



挨拶する大山会長

組、シニア、青年協、With、織内議員団、支援産別代表など約300人が参加、田中ひさや候補予定者を必ず国会へ送ると決意を固めた。

連帯挨拶で支援産別の基幹労働神田中央執行委員長は「労働組合は組合員とその家族の幸せを追求し賃上げや政策に取り組んでいる。その笑顔はそれぞれ違うが仲間の笑顔とす



べての働く者の笑顔をつくるための闘いだ」と挨拶した。シニアの大山会長は「応援者カードが3年前を上回った。安倍政権の勝手放題をやめさせるために田中ひさやさんを必ず国会に送り込むため全力で闘っていく」と激励した。さらに大手労組、業種別部会、議員団会

議の代表者が決意表明。Withの代表が必勝の千羽鶴を壇上で田中さんに手渡した。

そして田中ひさや候補予定者はJAMと基幹労働の職場で懸命に働く仲間の姿や生活、シニアの声を紹介し「厳しい状態におかれている仲間が本当に多いことをはつきりと自覚した。仲間の企業が日本のものづくりを支えていることに誇りをもち、さらに発展して

日本経済が良くなること、私たちがの幸せにつながる。価値を認め合う社会の実現に向けて最後まで闘う」との力強い決意に会場から万雷の拍手が沸いた。

東京 東京街歩きで湾岸視察クルーズ

懐かしい南極観測船宗谷丸を見学

平木 和裕 通信員

第21回目となる「東京・街歩き」を3月26日(火)、ご夫婦を含む46名の参加を得て実施した。小雨で心配されたが天気は持ち直し午後には青空が見えてきた。竹芝小型船ターミ

ナルから乗船、まずレインボープリッジを潜り進行方向の右手に見えてくるのが品川ふ頭。大井コンテナふ頭。大井コンテナふ頭は首都圏における国際物流の中心となる日本屈指の



初代南極観測船「宗谷」公開中

とが出来、船会社が専門的にふ頭を借り、世界各地の代表的な港と定期航路で結ばれている説明があった。

東京湾はコンテナ取扱量が横浜港より多く20年連続日本一で、国際貿易港として生活と産業を支える重要な物流の拠点となっていることを実感。羽田空港からの飛行機の離着の

様子も見ることが出来る。東京湾コースを一周後、懐かしい南極観測船「宗谷丸」に乗船し船内を見学した。

昼食は「船の科学館」駅からゆりかもめで「お台場海浜公園」に移動し、長岡会長の乾杯で始まり、中華料理を頂いた。改めて海からのマンモス都市東京を実感した。

豊洲市場は2018年に営業を開始し最大の特徴は温度を適切に管理できる閉鎖型施設(マグロセリが行われる1Fは室温10℃)、商品を高温や風雨の影響から守り鮮度を保つ

IHI豊洲ビルで少し遅れた昼食をとり、IHIグループの歴史と技術のミュージアムを見学し、ものづくりの歴史を肌感じながら解散した。大変有意義な一日になった。

玉 日本のお台所「豊洲市場」

アーバンドック(HI造船所跡)を見学

小泉 茂 通信員



地下鉄で豊洲駅へ移動、ゆりかもめに乗って市場前で下車。ゆりかもめは新橋と東京臨海副都心を結ぶ交通機関として1995年に新橋駅ー有明駅が開業、2006年に豊洲駅まで延伸された。沿線には多数の観光資源(お台場、フジテレビ本社、ダイバーシティ東京、日本科学未来館)や東京ビックサイトなどの施設が林立し利用者が増加している。自動列車運転装置による無人自動運転で運転中は社内運転手や車掌は乗車していません。

建屋は①施設管理棟②青果棟③水産仲卸売場棟④水産卸売場棟に分かれ、まず施設管理棟のPRルームで概要説明を受けた後マグロセリが行われる水産卸売場棟に移動、記念撮影を行い3F見学者通路よりガラス越しに見学した。せりの見学時間は午前5時45分から6時15分までの交代制で抽選。その後水産仲卸売場にて自由散策、寿司屋などの店舗を見学しお土産を購入、再びゆりかもめで豊洲駅に戻りアーバンドックに向かった。アーバンドックは石川島播磨重工業の跡地を再開発したエリア。使用された巨大クレーンや船のパーツが歩道や植え込みに残って造船日本の歴史を感じさせる公園として整備されていた。